

教授・山下 裕作

大学院人文社会科学部 文学系 民俗学

▶ 研究内容

民俗誌調査は長期的なワークショップです。

地域振興のための資源の探索や、自治防災に必要な環境点検に役に役立ちます。これまで繰り返し行われてきた民俗調査は、**年来続く過疎高齢化に堪えうる地域社会を作り上げてきました。**



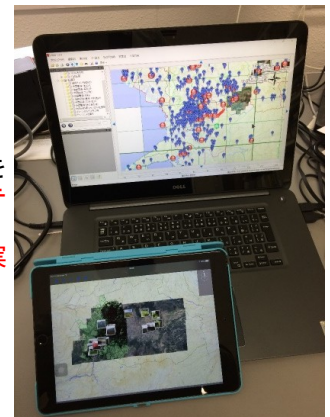
民俗誌調査によって生活環境が改善し、 限界集落化を避けることも



島根県の準限界集落での民俗調査を契機に、住民が荒れた農業用小河川の草刈りを行い、耕作放棄地の管理も始めました。限界集落では高齢住民による生業・民俗行事の記録により、民俗行事が復活し、複数の若い子連れの家族がUターン移住してきました。**地域に伝承する民俗文化には地域を継続させる機能があるのです。**

民俗誌調査を住民自身で日常的に実施できる システムの開発

どんな地域振興活動も 年もすれば効果が落ちてきます。住民自らが普段からワークショップを続けていなければ、持続可能な地域振興活動は不可能です。そこで、スマホを使って**日常的に楽しみながら民俗調査ができ、情報を地域住民で簡単に共有出来るシステム** モバイル型地域博物館システムMMG を開発してます 地域振興や自治防災など、役に立つのですが、現在は資金難で開発が止まっています。涙。熊本地震では**災害状況把握に実際に使用しました。使えます。**



▶ 提供できる技術

①地域振興等のために必要な固有の文化的地域振興を発掘し、整理できます。②伝承文化は地域住民の生活文化であり、共有理解を得やすい情報です。合意形成にも有用です。③現在、MMG開発は宙に浮いています。共同開発先があれば、前向きに検討させて頂きたいです。

▶ キーワード

伝承文化 民俗調査 住民参加型GISシステム 地域振興 むらづくり 自治防災 地域資源発掘